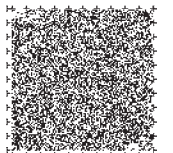
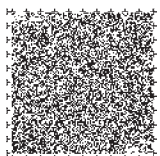


第 2 部 基本构想

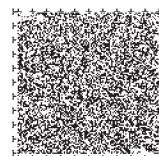




第1章 まちづくりの基本理念

基本理念は、本町が将来に向けたまちづくりを進めるに当たっての基本的な考え方を示すものです。

第6次杉戸町総合振興計画では、基本理念を「みんなで考え、行動することで、よりよい「杉戸」をつくる」と定め、行政や町民はもちろんのこと、杉戸町で働く人や杉戸町のことを知っている人、杉戸町に興味のある人など、杉戸町にかかわるすべての人が、まちの課題に取り組むために「考え、行動する」ことで、よりよい杉戸町をつくることを目指します。



第2章 まちの将来像

みんなで育てるまち すぎと

～自然とやさしさがあふれるまちへ～



将来像の言葉に込められた意味



みんなで育てる

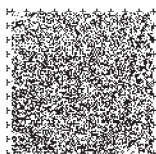
住民一人ひとりが家庭や地域、職場など様々な場所で、まちづくりにかわり、身近なことや小さなことからでも、考え、行動していくことで、これからの杉戸町を元気で魅力あるまち、愛着を持てるまちにしていくことを表現しています。

また、杉戸町にはたくさんの資源がありますが、その中には「芽が出ていない資源」も数多くあります。こうしたまちの魅力ある資源をみんなで見つけ、育てていくという意味も込められています。



自然とやさしさ

町に残る豊かな自然を守りながら、魅力的な活用を図っていくとともに、誰もがお互いに助け合い、共に歩いていくことができるやさしさを持ち続けることによって、安心して住み続けることができるまちを目指していきます。



第3章 まちの未来像

杉戸町が目指すまちの将来像とともに、実現を目指す10年後のまちの姿を、具体的な8つの「未来像」（分野ごとの施策の柱）として位置付けました。

未来像1

まちぐるみで子育てに関わり応援できるまち

(子育て)

未来像2

子どもたちに未来を拓く力を育むまち

(学校教育)

未来像3

生涯を通じて学び、郷土に愛着を持てるまち

(社会教育)

未来像4

自らの健康を守りながら安心して暮らせるまち

(健康・福祉)

未来像5

地域がつながり、安全で災害に強いまち

(防災・交通・防犯)

未来像6

魅力ある産業を育み、発信できるまち

(産業・情報発信)

未来像7

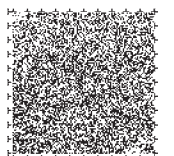
機能的で自然と調和した快適なまち

(都市基盤・環境)

未来像8

信頼される行政運営を推進するまち

(行財政運営)



未来像！

まちぐるみで子育てに関わり応援できるまち

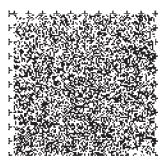
(子育て)

子育てに奮闘しているみなさんは、仕事との両立や子育ての不安など、様々な悩みを抱えています。

このようなとき、同じ子育て世代の仲間や、子育て経験のある家族や地域の方から差し伸べられる手は、心強く感じるのではないのでしょうか。

また、子育て世代が楽しく集まれる場所や、SNSを使った情報交換など、お互いに助け合う横のつながりも大きな安心につながります。

みんなが安心して子育てをしていけるよう、行政だけでなく、地域や企業が少しでも手助けできるを見つけ、子育ての様々な悩みを減らしていける、まちぐるみで子育てができるまちを目指します。



未来像 2

子どもたちに未来を拓く力を育むまち

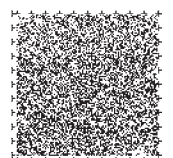
(学校教育)

基本構想

これからの社会はますます複雑になり、先々を予測することは非常に難しくなっています。

未来を担う子どもたちが、自らの未来を切り拓いていくために必要な力を確実に育み、豊かな人生を歩んでいくことができるよう、これまでの教育の中で育まれてきた「生きる力」や、その中で重視されてきた知・徳・体の育成の現代的な意義を改めて捉え直すことや、地域とともにある学校づくりが必要です。

子どもたちが、学ぶ楽しさを実感し、未来につながる資質・能力を確実に育む、社会の変化に対応した教育を実践できるまちを目指します。



未来像3

生涯を通じて学び、郷土に愛着を持てるまち

(社会教育)



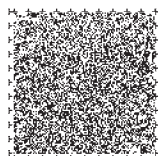
見たい、知りたい、やってみたい、という学びの姿勢はだれもが持っているものです。

好奇心を持ち、好きなことを学ぶ、興味のあることにチャレンジしてみることで、得意なことや知識が広がっていきます。

子どもも、大人も、お互いに教え合い、学び合うことで、好奇心を刺激し合いながら楽しい学びを続けていくことができます。

その中で、まちの歴史や文化、昔ながらの遊びにも興味を持ち、学んでいくことで、郷土愛を持って町のことを考えることもできるのではないのでしょうか。

だれもが自ら学び、自らを高めるとともに、郷土に愛着や誇りを持ち、将来に引き継いでいくことができるまちを目指します。



未来像4

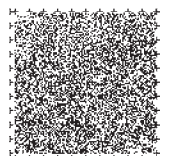
自らの健康を守りながら安心して暮らせるまち
(健康・福祉)

「人生 100 年」といわれる今、いつまでも健康でありたいという願いはだれもが持っているものです。

健康であり続けることは大変なことです。気の合う仲間と一緒にスポーツをしたり、健康診断を受けたりするしつみを充実していくことで、「自分に合った」健康づくりを後押ししていくことができます。

また、高齢者や障がいのある人をはじめ、様々な人がつながりを持ちながら、安心して自分らしく暮らすことができる環境づくりも必要です。

自分の健康を守りながら、地域の中で支え合い助け合うことができるまちを目指します。



未来像5

地域がつながり、安全で災害に強いまち

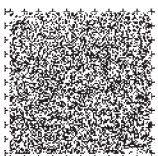
(防災・交通・防犯)

大きな災害が増えている昨今、災害に対する備えはもちろん、災害が発生したときに個人や地域がどのように行動すればよいかなど、災害の種別と特性に応じた対策が求められています。

また、犯罪や交通事故のない、安心して暮らすことができる環境も求められています。

災害対策や、日常の安心・安全の確保には、事前の備えだけでなく、人や地域のつながりが大きな助けになります。

起こりうる災害などに備えるとともに、いざというときに、人や地域がお互いを助け合うことができる、安全で安心して暮らすことができるまちを目指します。



未来像6

魅力ある産業を育み、発信できるまち

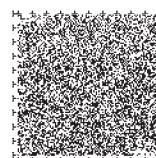
(産業・情報発信)

杉戸町には、おいしい農産物や魅力的な商品、歴史や文化など、様々な資源があり、その中には、住んでいる人にとってはあたりまえでも、外から見れば魅力的で貴重なものがたくさんあります。

杉戸産の食材を使ったグルメやスイーツ、様々な製品や商品などを地域の資源として充実させていくことで、産業が元気になり、いきいきと働くことができる場所も増えていきます。

そして、その魅力を内外に発信し、たくさんの人たちに杉戸町を知ってもらうことも必要です。

だれもが自分の住んでいる「まち」をよく知り、町が持つ様々な産業を活かしながら、杉戸町の魅力を創出、掘り起こし、発信していくことができるまちを目指します。



未来像 7

機能的で自然と調和した快適なまち

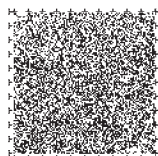
(都市基盤・環境)

10年後、20年後の杉戸町の姿はどうなっているのでしょうか。

東武動物公園駅東口通り線を中心とした、まちの玄関口となるシンボリックな公共空間、町に残る豊かな自然など、町の姿は刻々と変わっていきます。

それでも、住んでいる人が心地よさを感じる空間は、大きく変わることはないと思います。

計画的にインフラを整備しながらも、町が持つ豊かな自然を守り、引き継いでいくことで、機能的で安全な、市街地と豊かな自然との調和がとれた、だれもが安心して住むことができる居心地の良いまちを目指します。



未来像 8

信頼される行政運営を推進するまち

(行財政運営)

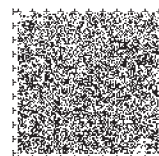
基本構想

社会が大きく変化し、求められる豊かさが多様化する中で、まちづくりにおいては、行政だけでは実現できないこともたくさんあります。

そのような中でも、信頼に応え、杉戸町をより住み良いまちにしていくために、町民、地域、企業の皆さんと協力しながら前に進んでいくことが必要です。

自分たちの住むまちを少しでも良くしたいという気持ちは、だれもが持っているものです。

行政だけでなく、町民、地域、企業の皆さんが、自らができることを少しずつ実行しながら、喜びや苦勞を、みんなで分かち合い、一緒にまちづくりを担っていくことができるまちを目指します。



第4章 まちづくりの枠組み

1. 将来人口

杉戸町の人口は、平成12(2000)年をピークに減少が始まりましたが、現在の人口の減少は、出生数が減少していることや、高齢化の影響などにより死亡数が増加し、結果として死亡数が出生数を上回る自然減の影響が大きいことが挙げられます。この自然減の傾向は、老年人口の増加や若年人口の減少傾向から、今後も続くと考えられます。

また、社会増減については、近年、年少人口(0歳~14歳)の転入が増加傾向にあるものの、20代の人口の転出が多い状況です。この傾向は進学や就職に伴うものと考えられ、生産年齢人口の減少の大きな要因となっています。

国立社会保障・人口問題研究所による推計では、将来人口推計は令和27(2045)年には3万人程度まで減少すると予測されています。

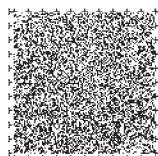
ただし、この推計も人口移動が今後一定程度収束すると仮定したものであり、年齢階級別に見る20代の転出超過がこのまま続けば、さらなる人口の減少につながります。

現在進行している人口の減少が大きな問題となっているのは、人口の減少がこれまで日本が経験したことがないスピードで進行していることにあります。

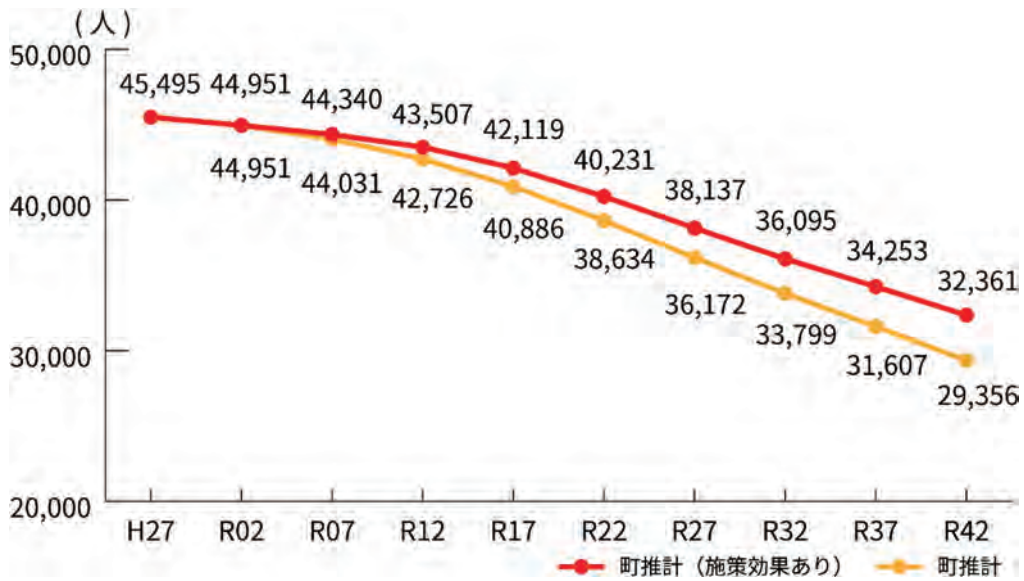
これまで、様々な社会制度や考えは、人口が増加していくことを前提に作られたものが数多くあるため、人口の急激な減少は、いたるところでひずみを生み、様々な問題を引き起こします。

もちろん、人口の減少を食い止め、増加に転じさせるための取組は必要となりますが、それらの取組をもってしても、今後、人口が減少していくということは避けることができないと考えられることから、人口減少のスピードを緩やかにし、社会の変化に対応しながら、それぞれの地域が活力を保っていくための適正な人口規模を維持していくことが必要です。

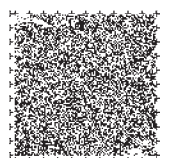
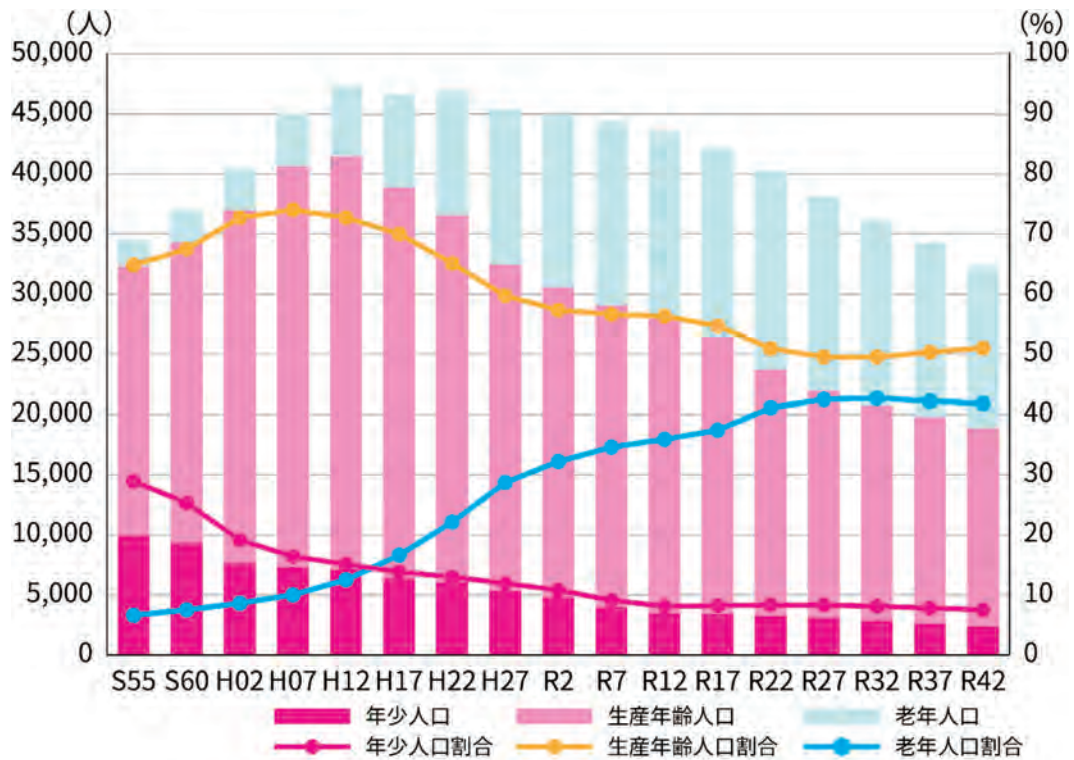
このような背景の中、今後の取組により、合計特殊出生率の改善などの一定の施策効果があったと仮定した場合の町の人口は、令和27(2045)年には38,137人、令和42(2060)年には32,361人と推計されます。



杉戸町の描く人口予測



総人口・年齢3区分別人口の人口予測 (施策効果あり)



2. 土地利用の基本方針

(1) 土地利用の基本方針

土地は、将来にわたる生活や生産活動の基盤であり、長期的視点に立った合理的かつ効率的な利用を図っていくことが重要となります。そのため、住宅、農業、商業、工業、都市公園の各ゾーンに分けて土地利用の方向を定め、適正な土地利用への誘導を図ります。

また、これらの骨格となる土地利用の方向性に加え、新たな土地利用の検討を図るべき区域については、それぞれの区域の特性を踏まえ、効果的・発展的な土地利用を誘導します。

具体的な土地利用の推進に当たっては、国土利用計画法、都市計画法、農業振興地域の整備に関する法律などの土地利用関係法の適切な運用に努めるとともに、土地利用に関する各種計画との整合を図ります。

(2) ゾーン別の方向性

① 住宅ゾーン

中央地区や杉戸高野台地区などの既存の市街地については、未利用地の有効活用などにより定住機能の強化に努めるほか、適正な用途区分や地区計画のもと、良好な住宅地の供給と居住環境の向上を図ります。

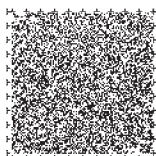
② 農業ゾーン

優良農地の確保や保全に努めるとともに、農地集積の促進による農業経営の大規模化など、効率的な生産基盤の強化を図ります。

③ 商業ゾーン

東武動物公園駅東口通り線を中心とした地域においては、「町の玄関口」として、都市計画道路整備の推進と併せた周辺の公共用地の活用により、賑わいのある、滞留したくなる商業環境の構築に努めます。

また、杉戸高野台駅周辺においても、引き続き地区計画による商業環境の



誘導に努めます。

④ 工業ゾーン

良好な産業環境を確保しながら効率的・効果的な工業の振興を図ります。

⑤ 都市公園

都市公園を中心に、周辺の地域を交流の場、地域活性化の場として活用します。

⑥ 土地利用検討ゾーン

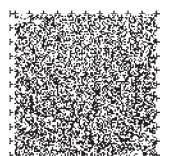
町の活性化に寄与する土地利用について検討を行います。

⑦ 農業活性化・交流ゾーン

アグリパークゆめすぎとを中心に周辺の地域を農業活性化や交流の場として活用します。

⑧ 沿道商業ゾーン

商業施設などの適正な立地に努め、商業環境の維持・保全を図ります。



土地利用構想図

